

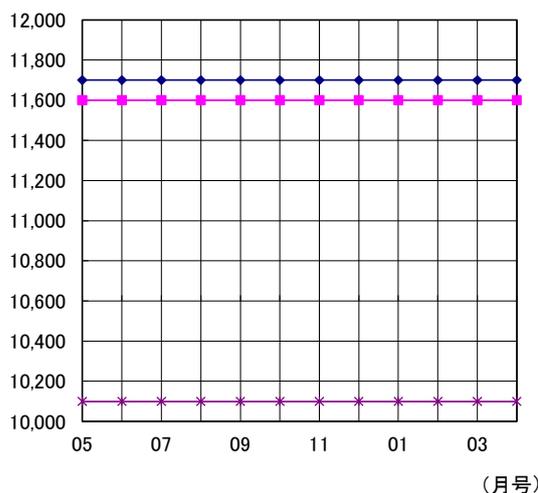
5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

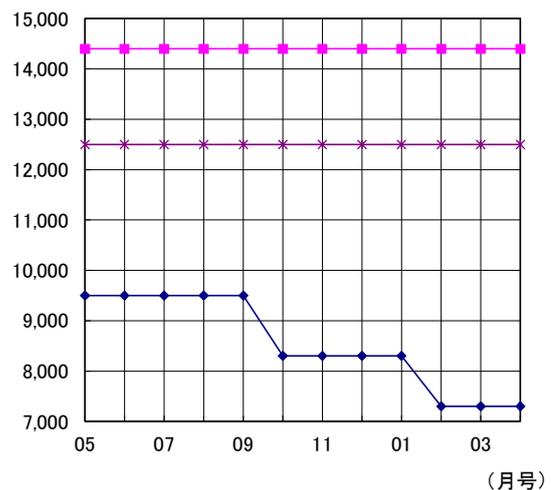
品目	1～3月期の状況と現況	先行き
セメント	<p>横ばい</p> <p>【新潟県】需要が前年度を上回るペースで推移する中、メーカー各社は製造・輸送コストの上昇を背景に値上げを唱えている。しかし、生コンクリート市況が低迷している新潟地区では、大口需要者である生コンメーカー側の抵抗が強く、交渉に進展は見られない。生コンクリート市況に回復の兆しが見えるまでは需要者の理解を得るのは難しいと見られ、当面、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県】最大需要者である生コンメーカー側が値上げに対して強い抵抗を示していたことで、メーカー側は年度内の交渉を見合わせ、新年度4月から仕切り直して交渉を進めている。生産・輸送コストの上昇を背景に売り腰を強めていく見通しであるが、交渉にはしばらく時間がかかると見る向きが多い。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】メーカー各社は、平成30年4月よりt当たり1,000円の価格引き上げを表明しているものの、県内生コンメーカーからの理解が得られず、交渉には時間を要している。販売側の一部は、1,000円の満額改定から段階的な値上げ交渉に方針を転換する動きも見られる。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(パ)物)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
生コンクリート	<p>新潟地区 1,000円/m3 下落</p> <p>【新潟県】新潟地区では、需要の低迷を背景に数量確保を優先した価格競争が激化し、価格は1月にm3当たり1,000円の下落を示した。新潟生コン協組では、市況下落に対する具体策として、4月以降の1プラント休止と21-8-25でm3当たり1万2,000円への値上げを打ち出した。民間大型物件の契約が一段落し、先行き、目ぼしい新規物件が見当たらず、市況好転の材料に乏しい。目先、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山地区では、非組合員間の競合による市況の軟化が懸念されたものの、一時的に骨材供給に不安が生じたことから非組合員の拡販志向は薄れ、結果的に価格競争は回避された。4月以降、新たな場所での骨材採取の許可が下りたことで、骨材供給不安の懸念は和らぐものの、根本的な解決までには至らないとの見方が大勢。当面、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【石川県】北陸新幹線延伸工事、宿泊施設建築等の需要が堅調に推移する中、南加賀生コン協組では、材料費、輸送費、人件費高を理由に3月以降の出荷分よりm3当り500円の値上げを表明した。需要者側は難色を示しているが、地区内に非組合員工場がないことから、先行き、強含みで推移する見通し。</p>	<p>(21-8-25)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
骨材	<p>横ばい推移</p> <p>【新潟県】新潟地区への主な供給者である阿賀野川骨材協同組合は、採取コスト、輸送コストの増加による収支の悪化に伴い、4月よりm3当たり600円の値上げを表明。しかし、コンクリート用骨材については生コンクリート市況の低迷から需要者側の抵抗は強く、当面、現行価格を横ばい推移する見通し。一方、再生路盤材は、実需以上のコンクリート塊の発生から在庫は潤沢。交渉物件が少なく市況変動は見られない。当面、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県】路盤材は年度末の需要期においても引き合いは乏しく、上下水道工事等の小規模向けが中心。メーカー側は原石採取コストの増加を理由に値上げを打ち出しているものの、路盤材需要が大幅に減少する中、数量確保を優先する動きも散見される。需要者との価格交渉は平行線で、当面、横ばい推移する見通し。</p> <p>【石川県】北陸新幹線工事向け骨材の需要増加を背景としたダンプ不足により、輸送コストが上昇している。また、採取の短期化や増産により歩留が悪化する等コストが増加している。こうした中、昨年9月から山碎石組合に加盟するメーカーは、販売価格の引き上げを唱えている。需要者側は、安定した材料調達を最優先とする姿勢から、厳しい指し値を控えつつある。先行き、強含みで推移する公算が大きい。</p>	<p>(C-40)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>

【価格推移】

セメント(普通ポルトランド パ) (円/t)



生コン(21-8-25) (円/m3)



品目	1～3月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p style="text-align: center;">横ばい推移</p> <p>【新潟県】需要は盛り上がりを欠く展開となり、1月～3月における棒鋼価格は横ばいで推移した。メーカー側は、副資材費や輸送費の上昇を理由に、強気の販売姿勢を維持している。また、流通側も追随し、これまでのメーカー値上げの未転嫁分を販売価格に反映すべく、売り腰を強めている。しかし、鉄屑価格が軟調に推移していることから需要者の指し値は厳しく、交渉に進展は見られない。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県・石川県】弱基調で推移している鉄屑価格を理由に、需要者側の購入姿勢は厳しい状況が続いている。一方、メーカー側は副資材、輸送費高を理由に強気な姿勢を崩さないため、流通側も値引き要求には応じることはできないと需要者に理解を求めている。先行き、現行値圏内を横ばいで推移する見通し。</p>	<p>(異形棒鋼)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
コンクリート二次製品	<p style="text-align: center;">新潟県で上伸</p> <p>【新潟県】少雪の影響から例年に比べ1月以降も堅調な荷動きが見られる。新潟県コンクリート二次製品協同組合では、原材料価格および運搬コストの上昇を理由に、平成30年8月より一律10%の値上げを打ち出していた。メーカー各社は採算悪化によるコスト意識の高まりから、数量指向による安値販売を回避し、自由勾配側溝で2%程度、歩車道境界ブロック、地先境界ブロックで3%程度の上伸を示した。販売側は、需要者との値上げ交渉を継続していく意向を示しているが、先行きの需要の不透明感が払しょくできない中で上値は重く、当面、現行水準を横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県】道路工事の減少を背景に、需要者側はメーカーへの値引き要求を強めている。メーカー各社は、原材料・輸送コスト高により総じて製品価格の5%以上のコストアップを強いられている実情を説明し、需要者側に理解を求めている。先行き、現行水準を横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】鋼材の値上がりや物流コストの上昇が続く中、協組側では3月より一律10%の値上げを打ち出している。メーカー各社も、ここ数年需要環境に明るさが見られないことで、工場固定費の圧迫を軽減すべく、値上げへの意欲を強めている。一方、需要者の反応は鈍く、交渉の進展にはしばらく時間を要する見通し。目先、横ばい。</p>	<p>(道路用製品)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
アスファルト合材	<p style="text-align: center;">先行き、横ばい推移</p> <p>【新潟県】主原料であるスト・アス価格が3月に値下がりしたものの、販売筋ではこれまでの上昇分を合材価格に転嫁できていないとして、売り腰を引き締めている。しかし、需要者の購買姿勢は依然として厳しいことから交渉に進展は見られない。目先、横ばいで推移する公算が大きい。</p> <p>【富山県】公共物件の低迷から、民需中心の荷動きとなっている。主原料であるスト・アス価格が軟調に転じたことで需要者側の指し値は厳しく、値下げ圧力が強まっている。販売筋では、出荷減少による固定費の上昇で採算が悪化している状況について需要者に理解を求め、現行価格水準の維持に努めている。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】スト・アスや油脂類の価格が高値圏で推移してきたことを理由に、合材メーカー各社は今年1月より合材価格の引き上げを需要者側に通知している。しかし、足元の需要が官民ともに精彩を欠く中、燃料油脂類も3月までは軟調な気配をみせたこともあり、需要者の反応は鈍い。先行き、横ばいで推移する見通し。</p>	<p>(粗粒-20)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>

【価格推移】

